

少年（中学生・小学生）の柔道試合は、「講道館柔道試合審判規定」のうち、次の条項を加え、あるいは置き換えたものによって行うものとする。

※ 文中の 内は、取扱い統一条項に示されている見解である。

1 加えるもの

第35条（禁止事項）に、禁止事項として次の各号を加える。

(1) 「立ち勝負のとき」

ア 相手の後ろ襟・背部又は帯を握ること。・・・・・・・・・・『指導』
ただし、技を施すため、瞬間（1、2秒程度）に握るのは認められる。

（注） 中学生の場合は、試合者の程度に応じて、後ろ襟を握ることは認められる。

- ① 「後ろ襟」とは、「取扱い統一条項」の「柔道衣の各部の名称」の通りとする。
- ② 「後ろ襟」の解釈については、柔道衣を正しく着用したときの首の後ろ側（うなじ）の範囲にある襟の部分を用いる。たとえ試合者の一方が後ろ襟を握った後、その襟を引き下げて側頸部にずらした場合でも反則とする。
- ③ 「背部を握る」の範囲は、目安として肩の中心線に手首がかかるような状態の場合を背部とみなす。
- ④ 「後ろ襟、又は背部を握った」状態で、通称ケンケン内股等をかける場合は、「瞬間的（1、2秒程度）」の規定に関わらず、特例として認める。

イ 両膝を最初から畳について背負投を施すこと。・・・・・・・・・・「注意」以上

両膝を最初から畳につくとは、同時はもちろん、ほとんど同時と見なされる場合も含む。技が崩れた結果である場合は反則としない。

ウ いきなり相手の足（又は脚）をとること。・・・・・・・・・・「注意」以上
（以下、「いきなりの足とり」に省略）

（注） 中学生の場合は、試合者の程度に応じて、片手で襟、又は袖を握っている状態から、相手の足（又は脚）をとることは認められる。

- ① 相手が技をかけてきたとき、変化して「足をとって」投げた場合、又は自分の技から連絡して「足をとって」投げた場合は認められる。
- ② 「手で相手の足（又は脚）をとる」投技の中には、朽木倒、踵返があるが、これらの技を施す場合、相手と離れているときは当然のことながら、片手で襟、又は袖を握っているとき、もしくは組んでいるときであっても、「いきなりの足とり」は反則となる。
- ③ 肩車の場合は、「いきなりの足とり」とは解釈しない。

(2) 関節技を用いること、及び絞技のうち、三角絞を用いること。・・・・「注意」以上

（注） 小学生の場合は、絞技、関節技いずれも禁止する。・・・・「注意」以上

- ① 寝技のとき、脚を交差して相手を制しているだけの状態は、三角絞とはみなさない。ただし、危険な状態になったときは、「待て」と宣告して立たせる。
- （注） 小学生の場合は、寝技のとき、意思はなかったが絞技、関節技が利いた場合は、「待て」と宣告して立たせる。

(3) 次の技を施すこと。

- ・ 蟹 挟・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・「反則負け」
 - ・ 無理な巻き込み技・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・「注意」以上
 - ・ 相手の頸を抱えて施す大外刈、払腰等。・・・・・・・・「注意」以上
 - ・ 双手刈・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・「注意」以上
- (注) 小学生の場合は、裏投を禁止する。・・・・・・・・「注意」以上

- ① 「無理な巻き込み」とは、軸足のバネを利かすことなく、体を利用して倒れこむようにして巻き込んだ技をいう。

② 「相手の頸を抱えて施す大外刈、払腰等」とは、明らかに腕を相手の首に巻きつけて施した場合のみをいう。

(4) 固技などで頸の関節及び脊椎に故障を及ぼすような動作をすること。 「指導」以上

2 置き換えるもの

(1) 第27条（「抑え込み」及び「解けた」の宣告）

＜主審は、「抑え込み」が完全にその態勢に入ったと認めたとき、「抑え込み」と宣告する。「抑え込み」と宣告された後で技をはずしたときは「解けた」と宣告する。＞とあるのを、＜主審は、「抑え込み」が完全にその態勢に入ったと認めたとき「抑え込み」と宣告する。「抑え込み」と宣告された後で技をはずしたときは「解けた」と宣告する。また、抑えられている試合者が両膝とも畳についた形になったときは「解けた」「待て」と宣告して立たせる。＞にする。

※ この両膝とも畳についた形とは、試合者の腰が上がった状態が2、3秒続いた場合で、両膝頭とも畳についた場合をいう。

(2) 第37条（「一本」の判定） 2. 固め技、(3)号「(注)絞技と関節技では、技の効果が十分現れたとき」を適用し、絞技においては、審判員は見込みによって「一本」の判定を下す。

3 教育的配慮から特に留意する禁止事項

(1) 「相手と取り組まず、勝負を決しようとししないこと。（約20秒間）。また組んでも切り離す動作を繰り返すこと。」 [第35条 禁止事項(2)]

(2) 「立ち勝負のとき、極端な防御姿勢ををすること。（6秒以上）」 [第35条 禁止事項(4)]

(3) 「立ったままで、試合者が互いの手の指を組み合わせ姿勢を続けること。（6秒以上）」 [第35条 禁止事項(9)]

(4) 「服装を乱すこと、及び審判の許可を得ないで勝手に帯等を締め直すこと。」 [第35条 禁止事項(10)]

(5) 「無意味な発声をする事。」 [第35条 禁止事項(14)]

(6) 「相手の体に危害を及ぼしたり、柔道精神に反するようなこと。」 [第35条 禁止事項(32)]

以 上